

1 主な意見

- (1) アーツ前橋の場合は、広範囲な活動をしているので、専門性の高いスタッフを増やしていかないと厳しい。
⇒まずは中心となる任期無し、また任期付きの正規学芸員を増やす（任期無しではR7で1名、R8でさらに1名予定）。
- (2) 他館の事例として、プロフィット（営利を目的）のパートナーを水面下で探している美術館が増えている。税収だけではプログラムを賄うのが厳しくなっていくと思う。
⇒R6にふるさと納税にて当館用のメニューを創設。各種助成制度も活用している。
- (3) 予算の関係や人員の関係でほとんど行われていないと思うが、今後アーティスト・イン・レジデンスについてはぜひ積極的に復活していただきたい。アーティスト・イン・レジデンスは、日本語が不自由な方と地域が繋がるのになかなかうまくいっている例がないが、中之条ビエンナーレは非常にいい例だと思う。
⇒アーティスト・イン・レジデンス事業については令和8年度から本格的に実施予定。
- (4) サポーターについて、他館の事例ではもともと30人くらいで活動をしていて、追加募集という形で集めていた。活動を希望する方には必ず活動を見てもらうようにしていた。
⇒新年度から募集を強化していきたい。
- (5) 学校への訪問だったり前橋市内の中高校生を展示に招待して解説をしたりすると、子供たちにとっても教育になると思う。
⇒学校への訪問は市出前講座を利用してもらう方法を実施しており、また、アーティスト・イン・スクールとしても令和8年度から実施予定である。一方で、子どもたちに当館に来てもらう努力を行っていきたい。
- (6) インフルエンサーとタッグを組む効果は歴然としてあると感じたので、アーツ前橋でもぜひ検討してほしい。
⇒ニューホライズン展（2023年9月開幕）からプレスツアーへの招待や無料招待をDMで実施（謝礼・交通費は支給なし）。また、ゴースト展からはインフルエンサーに広告業務として外注。